

一六四三	寛永二十年
一六四五	正保二年
一六四六	正保三年
一六四七	正保四年
一六五三	承応二年
一六五四	承応三年
一六五八	万治元年
一六六五	寛文五年
一六六七	寛文七年
一六六九	寛文九年
一六七〇	寛文十年
一六七二	寛文十二年
一六七二	寛文十二年
一六七三	延宝元年
一六七三(八〇)	延宝中
一六七四	延宝二年
一六七五	延宝三年
〃	〃
一六七八	延宝六年

保科正之来封、高田組をおく、軽井沢銀山制ができる、蠟、漆の貢納始まる。

大割元を廃し郷頭制とする。切支丹奉行をおいて取締る。

この頃本郷で瀬戸焼を始める。

会津藩駅通制をおく。

寺堀多聞院を円説再興する。

高田に馬市はじまる。下荒井よりおくれること三十二年。

蟹川村、下荒井村の端村より独立する。

会津風土記書上げ、中荒井組土地帳、高田組土地帳書上げ、地名の文字を改める。

七月十七日、大川、鶴沼川大洪水。

下小松常德寺再興、切支丹制札をたて、きびしく取締る。

大川の渡橋、上米塚など八カ所に定めが出される。

会津神社表編集。

会津旧事雑考九巻できる。会津神社志なる。

蕎麦目村より山内惣七十二所新田に来て肝煎となる。

高田組中荒井村、橋詰村の中荒井組・橋詰組の組みがえ行わる。

宮の下八幡宮の修補棟札あり。

下小松に小松稲荷を祭る。両堂の西光寺、この頃までに廢寺になっている。

鷲林八王寺神社勸請。

真渡西光寺の像にこの年の銘がある。